

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
 高知県地域福祉部障害保健福祉課内
 高知県精神保健福祉協会
 電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
 FAX：088(823)9260
 E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
 発行人 明神 和弘 編集人 谷 晃

第259号

高知県精神保健福祉協会

平成27年度活動計画

会長 明神 和弘

国会では、安保関連法案の是非を巡って連日与野党の話しあいが続いています。頑丈な堤防も小さな割れ目から崩壊に至ることもあり、そんな事態が起こらないため平和な日本を維持する事ができるよう慎重に考えて結論を出して欲しいと願っております。

さて、平成27年度の高知県精神保健福祉協会の活動計画がまとまりましたのでご報告致します。

広報委員会では例年通り『高知精神保健』を年3回(6.9.3月)に発行致します。昨年度は認知症についての報告が多かったように思いますが、今年は障がい者のバレーボールや最近人気があるフットサル(高知県でもチームができております)など、スポーツに関する話題を取り上げたいと思っております。例年行われておりました精神保健福祉大会座談会は今年はず、大会内容を含めたお知らせを新聞に掲載させて頂く予定としております。

大会実行委員会では、高知県の生んだ偉大な精神科医:森田正馬先生の森田療法を取り上げました。「不安と向き合う -郷土が生んだ森田療法-」という演題で、東京慈恵医科大学精神医学講座教授の中山和彦先生にご講演頂き、その後に「今をどう生きるか」をテーマにシンポジウムを行います。大会日程は平成27年10月20日(火)13:00~16:00で、例年通り高知県民文化ホール(グリーンホール)で行います。

総合福祉委員会では例年通り、卓球大会・ソフトボール大会・文化交流会を行います。卓球大会は平成

27年6月23日(火)高知県民体育館にて、ソフトボール大会は平成27年10月8日(木)春野総合運動公園にて行います。このソフトボール大会は年々参加チームが少なくなっており今回の第60回をもって終了となります。記念すべき大会となるため各病院・施設などチームを作り、より多くのチームに参加していただき最後の大会を盛り上げたいと考えております。文化交流会は本年度第19回となり高知県民文化ホール(グリーン)にて行います。

調査研究委員会では、高知大学の上村先生を中心として研究課題「軽度認知障害(MCI)に見られる発達障害の有病率に関する調査研究」が昨年10月からスタートしております。平成28年2月頃には調査結果が出る予定になっております。

研修委員会では「第18回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修」を開催致します。平成27年9月~12月



第60回高知県精神保健福祉協会定例総会

目次

平成27年度活動計画 1
 平成27年度高知県精神保健福祉関係機関連絡会 2
 塩崎厚生労働大臣が高知市の就労支援施設を視察 3

第18回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修 4
 平成27年度高知県精神障害者家族会連合会大会 5
 精リハ学会「よっさー来い基金」の協力者を募集中 6
 精神保健福祉卓球大会の結果について 6

まで5回開催の予定です。また「地域での研修会及び交流会」を平成27年11月に土佐市において行う予定です。

基金運営委員会では、例年通り社会復帰施設への貸付事業を行います。借入金の限度額は200万円で償還期限は1年以内、融資利率は無利子となっております。必要に応じて利用して頂ければと思っております。

以上が大体の活動計画ですが、県民の皆様方にご意見、ご感想をいただきながらより充実した活動を展開していきたいと思っております。今後もご支援宜しくお願いいたします。

平成27年度 高知県精神保健福祉 関係機関連絡会

日時：平成27年6月24日（金）
場所：高知城ホール

参加した各機関の活動状況と計画について

1. 高知いのちの電話協会

<http://www4.ocn.ne.jp/~k-inochi/>

相談数は17,179件。8割近くがリピーターと思われる。

電話相談員の登録数は143名であるが、実働数は90名程度で不足を感じている。

月に1回、24時間体制の相談受付を行う。

NPOの個人会費は3,000円であるが、資金確保のため募金活動を推進する。

10月4日に自殺防止公開講座の開催。講師は竹島正先生。

理事長が井上新平から山光康雄に交代した。

2. (社)高知県社会福祉協議会

<http://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

地域生活支援部では、生活困窮者就労準備・家計

相談支援事業を行っており、フードバンクでは150人近くに食料補助をしている。

福祉人材センターでは昨年200名を事業所に斡旋した。

福祉研修センターでは、資格取得のための研修や社会福祉従事者のための研修を県内の市町村ブロックごとに開催している。

3. 高知県精神障害者家族会連合会

会員280名程度。高齢化している。病院家族会は4団体。

当事者の自立を目指して、訪問支援の充実のため上部団体ではイギリスへの視察を行っている。

交通運賃割引等の障害間格差を是正するため署名活動に全力で取り組む。県内のとさでん交通については今週に割引適用が実現する見込み。

電話相談活動(第1第3水曜日)を継続。

4. 高知県精神障害者地域生活支援施設連絡会

<http://www46.atwiki.jp/kochi-shstsrn/>

施設連の事業としては、研修に注力していて前年度も3本開催した。

病院のグループホームにも研修への参加を呼びかけていく。

サービス管理者の受けるべき研修が、報酬算定要件として法定化される見込みがあり、施設連の行う研修との兼ね合いを考えることになる。

5. 高知県精神保健福祉士協会

精神保健福祉士は平成10年に法制化され、現在県下の会員数は160名で、ほぼ半分が病院勤務。残りは行政などの機関に所属している。

大部分が高知市に集中しているので、郡部の会員との連携が課題。

PSWの日に、認知症関連団体とタイアップした活動を予定。

6. 高知県断酒連合会

高知県内にある5団体の連合組織で、相互の融和

を図る。

酒害についての相談など、年間毎月の活動を展開している。電話相談もしているが、その先へなかなか繋がらない。

7. 高知県臨床心理士会

会員100名、全国でもっとも少ない。

病院のほか、学校などでのカウンセリングにあたる。県内のすべての中学校にカウンセラーが配置された。

会員対象の研修を企画実行するほか、日本臨床心理士会の各種委員会に出席。

1月には全国一斉に「こころの健康電話相談」を実施。

臨床心理士の資格化についての法案が、今国会に提出されるか注目している。

8. 日本精神科看護協会

<http://www.jpna.jp/>

名称が変更された。

平成27年 9月 5日、高知県立牧野植物園で、「こ

ころの日講演会」開催。テーマは、植物の恵みを病気の予防と治療に生かす。講師は牧野植物園園長、水上元氏(薬学博士)

会員が行う「こころの健康出前講座」を新設した。

平成27年12月の日本精神障害者リハビリテーション学会高知大会への参加協力。

9. 精神保健ボランティア ほっとはあと

活動を始めて20年、会員は60名。

行事は、ハイキング、クッキング教室、クリスマスコンサート、ソフトバレーボール大会など。

平成27年 4月に障害者手帳の統一化が実現し、電車バス運賃を半額する運動にも参加する。

第16回精神保健ボランティア全国の集いが、高知で開催される可能性がある。

県の衛生総合庁舎建替え工事に伴い、拠点の移動が課題。

10. 高知県精神神経科診療所協会

会員は7施設。

災害時のDPAT研修(広島)に参加した。

塩崎恭之厚生労働大臣が、5月16日土曜日に 高知市の就労支援施設を視察した。

すでに高知新聞で報道されたように、NPO法人ワークスマらい高知の運営する洋菓子工場(高知市神田)、喫茶店(高知市帯屋町)などのほかに、社会福祉法人さんかく広場の運営する「サンカフェ」(高知市棧橋通)にも視察に訪れた。塩崎大臣は30分ほど施設職員と利用者から仕事の内容について説明を受けた。説明にあたった利用者の柳川和穂さんが7月から上記の帯屋町の喫茶店に移ることになっていて、新しい職場での仕事などについて大臣との間で話がはずんだとのこと。



左から、塩崎恭久厚生労働大臣。柳川和穂氏。伊藤博子さんかく広場理事長。公文一二理事。武市由美子サービス管理者。杉中由季職員。杉本雅史理事。

第18回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修

はじめに

精神科医療の現場だけでなく、家庭で、学校で、職場で、地域社会で、さまざまな場所で精神保健や精神障害者福祉が語られるようになっていきます。子どもから成人、高齢者に至るまでメンタルヘルスの問題は現代社会を生きる人々にとっての大きな課題です。また、今年は、生活困窮者自立支援法が施行され、働きたくても働けない、住むところがない人などへの支援制度が始まりました。障害者の生活支援にも少なからず影響が出てくるものと思われる。私たちが社会の中で生きていく、暮らしていくためには、経済面や心理面など、さまざまな困難を乗り越えていかなければいけません。また、精神障害者にとっても、精神科医療のユーザーであること以上に、趣味を嗜んだり、スポーツに汗を流したり、人として人生を楽しむことをどう確保するか、そして、支援者が専門家としてどう支援できるかも大切になっているのではないのでしょうか？この研修をとおして、障害の有無にかかわらず、社会の中で生きること・暮らしていくことについて、精神科医療や精神保健福祉を担っているみなさんとともに考えていく機会になればと考えています。

高知県精神保健福祉協会・研修委員会
委員長 山崎 正雄

1. 目的

精神保健福祉に従事する職員等の資質向上と実務に役立つ知識・情報を研修により獲得し、日々の業務に役立てる。

2. 対象者

精神科医療機関、障害福祉サービスの事業所職員及び、精神保健福祉の行政担当職員。

3. 内容

回数	日時	内容および講師
第1回	平成27年 9月7日(月) 14:00~16:00	「やさしさを越えた精神科看護」 日本精神科看護協会高知県支部長 細木ユニティ病院看護部長 岡本 真知子 氏
第2回	10月2日(金) 14:00~16:00	「はじめよう!! WRAP (元気行動回復プラン)」 りぐらっふ高知代表 安藤 里恵子 氏
第3回	10月29日(木) 14:00~16:00	「児童思春期を語るということ」 高知工科大学共通教育教室教授 健康管理センター長 池 雅之 氏
第4回	11月19日(木) 14:00~16:00	「フットサル活動から見えてきた 障害者とスポーツ」 海辺の杜ホスピタル作業療法士 中越 太一 氏 近森病院総合心療センター作業療法士 織田 靖史 氏
第5回	12月10日(木) 14:00~16:00	「生活困窮者自立支援の現場から 見えてきた精神障害者支援」 高知市成年後見サポートセンター・センター長 高知市生活支援相談センター・副センター長 中島 由美 氏

※会場はいずれも、高知県保健衛生総合庁舎5階大会議室
※5回のうち4回以上を受講された方には、高知県精神保健福祉協会から修了証をお渡します。

4. 受講条件

高知県精神保健福祉協会会員であること。(当日からの入会でも可・会費3千円)

5. 定員

50名程度(定員を超えた場合は、お断りすることがあります。ご了承下さい。)

6. 申込方法

別紙申込書に記入のうえ、高知県精神保健福祉協会事務局まで、郵送またはFAXにてお申し込み下さい。締切は、平成27年8月10日(月)です。

できるだけ郵送でのお申し込みを希望いたしますが、FAXでお申し込みされます方は、個人情報記載されておりますので、番号間違いにはくれぐれもご注意ください。

申込先

〒780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20
高知県障害保健福祉課内
高知県精神保健福祉協会
TEL 088 (823) 9669
FAX 088 (823) 9260

平成27年度高知県精神障害者家族会連合会大会 研修「さんかく広場に学ぶ」

日 時:平成27年5月29日
場 所:高知県保健衛生総合庁舎5階
東大会議室

総会の議事終了後の家族会会員以外の参加も得て、今後の家族会のあり方、活動の方向をもとめて研修が開かれた。

1. 問題提起

①さんかく広場発足時のVTRを視聴しながら

公文一二(さんかく広場理事、看護師)

高知県最初の授産施設としてさんかく広場が構想されたが、候補地での反対運動から開設が3年遅れることになった。町内会の分裂を経てようやく計画が前進するまでの様子を当時のテレビ報道の録画で紹介。

②家族会の原点

杉本雅史(さんかく広場理事、PSW)

昭和48年に病院のケースワーカーとなった当時、県外で起こった誤った判断による強制的な入院による人権問題の事例から、本人と家族の間での自分の立場について振り返る。また苦しい状況にある家族の集まりの中から、病気が治っている夢を見るという姿勢ではなく、一緒に生きていく、生きやすい社会を作るために活動する家族会をつくろう。まず私た

ちがめざめましょう。という声があがり、それが高知県で最初の家族会、めざめ会の誕生となった。

③事業所家族会の今

伊藤博子(さんかく広場理事長)

長く精神科病院で相談員として病院の家族会とも関与してきた。平成4年に社会復帰を考える会が出来て、その後のさんかく広場設立につながった。そのさんかく広場の経営が行き詰った平成25年に理事長に就任した。最近では精神科病院での入院期間が短くなり、病院と家族との関係も希薄になってきた。むしろ地域で活動する福祉支援事業所での付き合いが長くなることから、平成27年度からさんかく広場では家族の集いを定期的に行うようになった。私が関与する「みどり作業所」でも行っている。

2. 質疑・意見交換

参加者から「既存の家族会との違い」や「これからの地域での暮らしをどうやって作っていくか」の声があった。これに対して伊藤らは、精神科病院での入院は急性期の3ヶ月程度となり、「たった一度の人生」の大半は地域ですごすことになる。これからの地域での暮らしの場として、作業所を利用することもある。治療を受ける病院での既存の家族会のほかに、作業所でも家族と事業所がつながるための枠組みとしての作業所の家族会は必要になってくる。社会資源としての精神科医療施設や地域活動支援センターのほかに、人と人がつながる場としてのさまざまな家族会がひろがり、かつつながることを期待したい。

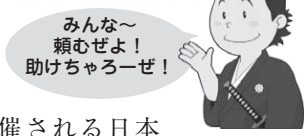


研修の様子



研修の様子

「よっさー来い基金」の協力者を募集中です。



よっさー来い基金って？

平成27年12月3日から開催される日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会では、専門家による学術的な場のみならず、当事者も含む一般市民の方々にも参加していただき、みんなでリハビリテーション、リカバリーについて考える場としたいと考えています。そこで、今回皆様のご協力を賜り、高知県外から参加される当事者に対し、参加費用を助成したいと考えました。高知県外在住の当事者を対象に、交通費・参加費として、一人あたり最大2万円（QUOカード等の金券にて）を助成する予定です。

より多くの高知県外の当事者に助成ができるように取り組んでいきたいと思っておりますので、みなさまからのご協力を、こころよりお待ちしております。

募集期間：平成27年9月30日(水)まで
募金金額：1口 1,000円(何口でもOK)
目標100万円です☺

募金方法：

銀行：四国銀行 宝町(たからまち)支店
[店番号107] 普通 5110760
口座名：日本精神障害者リハビリテーション学会
高知大会 よっさー来い基金

代表 清水 博(しみず ひろし)

*上記の口座まで振り込みでお願いいたします。申し訳ございませんが、手数料のご負担もお願いいたします m(。_。)m

問い合わせ：日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会 よっさー来い基金プロジェクト
(海辺の杜ホスピタル 横井)

yosakoi@japr2015.jp

*件名を「よっさー来い基金について」として
ください

平成27年度 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について

平成27年6月23日(火)に県民体育館で精神保健福祉卓球大会が開催されました。

***** 結果報告 *****

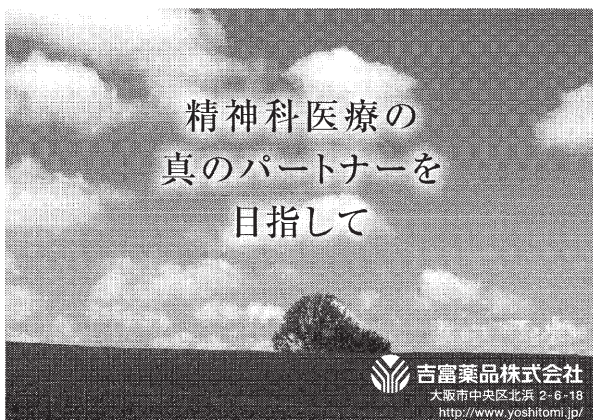
●団体の部

- 優勝 土佐病院
- 準優勝 近森総合診療センター Aチーム
- 第三位 高知ハーモニーホスピタルAチーム
- 第四位 同仁病院

●個人の部

- 男子 優勝 土佐病院の選手
- 準優勝 高知ハーモニーホスピタルの選手
- 女子 優勝 細木ユニテイ病院の選手
- 準優勝 高知ハーモニーホスピタルの選手

選手の皆さま、応援の皆さまお疲れ様でした。



からだ・くらし・すこやかに



www.ds-pharma.co.jp